

大阪薬科大学 研究業績

2020

(2020 年 1 月～12 月)

目 次

医療薬学領域

病態分子薬理学研究室.....	4
薬品作用解析学研究室.....	5
薬物治療学研究室	8
薬物治療学Ⅱ研究室.....	9
循環病態治療学研究室.....	10
病態生化学研究室	11
生体分析学研究室	14

薬学臨床領域

薬剤学研究室	16
製剤設計学研究室	18
社会薬学・薬局管理学研究室.....	21
臨床薬学教育研究センター.....	24

生物・予防薬学領域

衛生化学研究室	33
感染制御学研究室	35
生体機能解析学研究室.....	37
生化学研究室	38
薬品物理化学研究室	39

創薬化学領域

機能分子創製化学研究室.....	40
有機薬化学研究室	42
医薬分子化学研究室	44
生薬科学研究室	46
分子構造化学研究室	48

薬学教育領域

薬学教育研究センター.....	50
-----------------	----

共同研究センター

中央機器研究施設52

総合科学系領域

自然科学グループ53

言語文化学グループ54

人間文化学グループ55

環境医療学グループ56

病態分子薬理学研究室

学術論文

- 1) A. Sato, S. Nishioka, M. Kiuchi, Y. Imada, K. Makino, K. Nakagawa, R. Tanaka, Y. Matsumura, M. Ohkita*. 2020. Grape Extract from Chardonnay Seeds Restores Deoxycorticosterone Acetate-Salt-Induced Endothelial Dysfunction and Hypertension in Rats. *Biol Pharm Bull* 43:59-67.

学会発表等

- 1) 中川 恵輔, 下村 彩, 山本 淳彦, 小渕 修平, 大喜多 守, 松村 靖夫.: Effects of acute arginine treatment on vascular endothelial dysfunction associated with ischemic acute kidney injury. 第 93 回日本薬理学会年会, 3 月 (横浜, 紙上開催)

薬品作用解析学研究室

学術論文

- 1) Y. Hayase, S. Amano, K. Hashizume, T. Tominaga, H. Miyamoto, Y. Kanno, Y. Ueno-Inoue, T. Inoue, M Yamada, S. Ogata, B. Shabeesh, K. Hayashi, Y.Miura, K. Tokudome, Y. Ohno, T. Nishijo, T. Momiyama, Y. Yanagawa, A. Takizawa, T. Mashimo, T. Serikawa, A. Sekine, E. Nakagawa, E. Takeshita, T. Yoshikawa, C. Waga, K. Inoue, Y. Goto, Y. Nabeshima, N. Ihara, K. Yamakawa, S. Taya, M. Hoshino. 2020. Down Syndrome Cell Adhesion Molecule Like-1 (DSCAML1) links the GABA system and seizure susceptibility. *Acta Neuropathol Commun* **8**: 206.
- 2) A. Nishitani, H. Nagayoshi, S. Takenaka, M. Asano, S. Shimizu, Y. Ohno, T. Kuramoto.2020. Involvement of NMDA receptors in tremor expression in Aspa/Hcn1 double-knockout rats. *Exp Anim* **69**: 388-394.

総説

- 1) M. Kinboshi, A. Ikeda, Y. Ohno*.2020. Role of astrocytic inwardly rectifying potassium (Kir) 4.1 channels in epileptogenesis. *Front Neurol* **11**: 626658.
- 2) 大野 行弘*, 國澤 直史, 清水 佐紀. 2020. てんかんモデルを用いたてんかん原性研究. *メディカル・サイエンス・ダイジェスト* **46**: 79-83.

著書

- 1) 大野 行弘*. 2020. 「第5章 中枢神経系の疾患, 薬, 病態, 治療. 7.てんかんの薬.」. “疾患薬理学 改訂版” 成田年 監修, メオメディカル(神奈川), pp. 196-206.
- 2) 大野 行弘*. 2020. 「第5章 中枢神経系の疾患, 薬, 病態, 治療. 8.パーキンソン病の薬.」. “疾患薬理学 改訂版” 成田年 監修, メオメディカル(神奈川), pp. 206-214.

解説・プロシーディング・紀要・その他

- 1) 大野 行弘*, 國澤 直史, 清水 佐紀, 芹川 忠夫. 2020. 新規てんかん原性因子 Gai-interacting protein (GINIP)の機能解析研究. *てんかん治療研究振興財団研究年報* **31**:1-8.
- 2) 大野 行弘*.2020. 「てんかんの薬物治療と新たな創薬展開」. *薬事日報* 第 **12359** 号:4-

学会発表等

- 1) 清水 佐紀, 古居 薫, 加藤 綾, 澤島 愛加梨, 池田 昭夫, 大野 行弘.: セロトニン神経系を介したアストロサイト内向き整流性 Kir4.1 チャンネルの発現調節機構. 日本薬学会 第 140 年会, 3 月 (京都 Web 公開)
- 2) 久積 博明, 佐藤 和明, 國澤 直史, 金星 匡人, 松橋 眞生, 池田 昭夫, 清水 佐紀, 大野 行弘.: ピロカルピン誘発てんかんモデルラットにおける広域周波数脳波測定 日本薬学会 第 140 年会, 3 月 (京都 Web 公開)
- 3) 加藤 将貴, 清水 佐紀, 國澤 直史, 石倉 惟加, 平田 捺稀, 安永 美月, 大野 行弘.: $\alpha 7$ ニコチン受容体を介した振戦発現に対するドパミン神経系の調節メカニズム. 日本薬学会 第 140 年会, 3 月 (京都 Web 公開)
- 4) 國澤 直史, 加藤 将貴, 清水 佐紀, 伊波 イーゴル, 中西 聡, 庫本 高志, 金子 武人, 山本 卓, 真下 知士, 芹川 忠夫, 大野 行弘.: Phf24 欠損ラットのけいれん発現評価. 日本薬学会 第 140 年会, 3 月 (京都 Web 公開)
- 5) Naofumi Kunisawa, Tadao Serikawa, Masaki Kato, Saki Shimizu, Higor Alves Iha, Hisao Nishikawa, Yu Shirakawa, Masashi Sasa, Yukihiro Ohno. : Deletion of PHD finger protein 24 (Phf24) in rats causes elevated seizure sensitivity, emotional defects and cognitive impairment. 第 93 回日本薬理学会, 3 月 (横浜, 紙上開催)
- 6) Saki Shimizu, Kaoru Furui, Aya Kato, Akari Sawashima, Akio Ikeda, Yukihiro Ohno. : Serotonergic regulation of the inwardly rectifying potassium channel (Kir) 4.1 expression in mice astrocytes. 第 93 回日本薬理学会, 3 月 (横浜, 紙上開催)
- 7) Masaki Kato, Naofumi Kunisawa, Saki Shimizu, Yuika Ishikura, Natsuki Hirata, Mizuki Yasunaga, Yukihiro Ohno. : Role of dopamine receptors in modulating nicotine-induced tremor in mice. 第 93 回日本薬理学会, 3 月 (横浜, 紙上開催)
- 8) 加藤 将貴, 清水 佐紀, 國澤 直史, 石倉 惟加, 平田 捺稀, 安永 美月, 大野 行弘.: ニコチンによって誘発される振戦に対するドパミン神経系の調節メカニズム. 医工薬連環科学教育研究機構研究発表会, 1 月 (大阪)

- 9) 大野 行弘.: 錐体外路系運動障害の発現調節におけるニコチン受容体の役割ーコリンエステラーゼ阻害薬による振戦発現メカニズムの解析. 令和元年度喫煙科学研究財団研究報告, (誌上発表)
- 10) 芹川 忠夫, 中西 聡, 吉原 亨, 浅野 雅秀, 清水 佐紀, 國澤 直史, 大野 行弘, 笹 征史.: NER の行動異常における Phf24 遺伝子の関与についての検討, 第 67 回日本実験動物学会総会, 5 月 (大阪, 誌上発表)
- 11) 後藤 昌広, 梶川 駿介, 宇佐美 清英, 下竹 昭寛, 人見 健文, 山尾 幸広, 菊池 隆幸, 吉田 和道, 宮本 享, 松橋 眞生, 大野 行弘, 高橋 良輔, 池田 昭夫.: 臨床てんかん患者で, 細胞外 K 濃度の変動状態が発作発現に関与する可能性. 第 61 回日本神経学会学術大会, 8 月 (岡山)

薬物治療学研究室

学術論文

- 1) Y. Kohda*. 2020. Age-related hepatic glucose-dependent insulinotropic polypeptide expression is modified by ongoing thiamine supplementation in obese diabetic rats. *Fundam Toxicol Sci* 7:291-299.

著書

- 1) 松村 人志. 2020. 第 I 部 睡眠科学 第 4 章 睡眠・覚醒調節の液性機構 4.4 プロスタグランジン. 睡眠学 第 2 版, 日本睡眠学会 編集, 朝倉書店 (東京), pp. 61-65.

解説・プロシーディング・紀要・その他

- 1) 加藤 裕司, 田中 早織, 加藤 沙苗, 田口 真希, 水谷 沙帆, 山口 敬子, 松村 人志, スミス山下 朋子, 藤原 祥子, 後山 尚久, 島本 史夫. 2020. 胃底腺ポリープおよび胃過形成性ポリープ発症に関与する諸因子の検討. *大阪薬科大学紀要* 14:141-148.
- 2) 角山 香織, 吉本 悠, 西村 春香, 清水 美咲, 長宅 真幸, 田中 早織, 松村 人志, 中村 敏明. 2020. 初年次教育における学習意欲向上を目指したシミュレーション教育の評価. *大阪薬科大学紀要* 14:149-158.
- 3) Chikao Shimamoto, Saori Tanaka, Takashi Nakahari. 2020. Dose-dependent enhancement or inhibition of mucin synthesis in isolated colonic mucous cells provoked by nitric oxide *大阪薬科大学紀要* 14:113-140.
- 4) 田中 早織, 島本 史夫. 2020. カリキュラム変更に伴う薬物治療学の学習に影響する諸因子の検討. *大阪薬科大学紀要* 14:11-18.

学会発表等

- 1) 田中 早織, 松村 人志, 島本 史夫.: 2 型糖尿病合併脂質異常症ラットに対する食事療法が小腸の脂肪吸収機能・脂質再合成酵素発現と血中脂質濃度改善に与える影響. 第 34 回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会, 1 月 (高崎)
- 2) 田中 早織, 松村 人志, 島本 史夫.: 2 型糖尿病モデルマウスによる脂肪吸収機能に関する小腸の形態的・機能的変化の検討. 日本薬学会 第 140 年会, 3 月 (京都 Web 公開)

薬物治療学Ⅱ研究室

学会発表等

- 1) 福森 亮雄.: 薬剤師が教育や医療の現場で認知行動療法的アプローチを活かす試み.
日本認知療法・認知行動療法学会, 11 月 (京都・オンライン)
- 2) 田中 美紗希, 佐川 実唯, 藤田 芳一, 松村 人志, 山口 敬子.: *o*-スルホフェニルフルオロンと金属を用いる葉酸の吸光光度定量法について. 第 79 回日本分析化学討論会, 5 月 (北海道)
- 3) 鷺見 明子, 小山 麗央, 藤田 芳一, 松村 人志, 山口 敬子.: レゾルシノールとカルボニル化合物の縮合反応を用いる発蛍光反応について. 第 79 回日本分析化学討論会, 5 月 (北海道)
- 4) 湊 隆彰, 平良 滉大, 藤田 芳一, 松村 人志, 山口 敬子.: キサンテン系色素と金属イオンを用いる吸光光度定量法の過酸化物質への適応, 第 79 回日本分析化学討論会, 5 月 (北海道)
- 5) 西田 勇介, 神谷 拓, 藤田 芳一, 山口 敬子.: *o*-スルホフェニルフルオロンを用いた三元錯体反応による La(III)の吸光光度定量法. 第 79 回日本分析化学討論会, 5 月 (北海道)
- 6) 田邊 蘭太, 西田 勇介, 藤田 芳一, 松村 人志, 山口 敬子.: トリフェニルメタン系色素と Hf (IV) を用いたヒト血清アルブミンの吸光光度定量法の開発, 第 79 回日本分析化学討論会, 5 月 (北海道)
- 7) 真名子 啓太, 竹之下 修哉, 藤田 芳一, 松村 人志, 山口 敬子.: 2,4-ジヒドロキシベンゾイル安息香酸との縮合反応を利用するプリン体の定量法の開発について, 第 79 回日本分析化学討論会, 5 月 (北海道)

循環病態治療学研究室

学術論文

- 1) Imano H, Kato R, Ijiri Y, Yamaguchi T, Izumi Y, Nomura A, Yoshiyama M, Hayashi T* 2020. Protease-Activated Receptor-1 Inhibition by FR171113 Attenuates Cardiac Remodeling Due to Intermittent Hypoxia. *Ann Cardiol Vasc Med* **3**: 1036.
- 2) Kato R*, Ijiri Y, Hayashi T, Uetrecht J. 2020. Reactive metabolite of gefitinib activates inflammasomes: implications for gefitinib-induced idiosyncratic reaction. *J Toxicol Sci*, **45**: 673-680.
- 3) Azuma T, Hayashi T. 2020. Effects of Natural Sunlight on Antimicrobial-Resistant Bacteria (AMRB) and Antimicrobial-Susceptible Bacteria (AMSB) in Wastewater and River Water. *Sci Total Environ*, Epub Oct 1.

解説・プロシーディング・紀要・その他

- 1) 加藤 隆児, 井尻 好雄, 林 哲也. 2020. 新薬くろ~ずあつぷ (226) コララン錠 2.5mg, 5mg, 7.5mg (イバブラジン塩酸塩). *調剤と情報* **26**: 783-791.
- 2) 加藤 隆児, 井尻 好雄, 林 哲也. 2020. 新薬くろ~ずあつぷ (232) リンヴォック錠 7.5mg, 15mg (ウパダシチニブ). *調剤と情報* **26**: 2180-2191.

学会発表等

- 1) Murai I, Kaiami A, Kato R, Imano H, Morihara H, Tomoda K, Asahi M, Ijiri Y, Yamaguchi T, Izumi Y, Yoshiyama M, Ohta-Ogo K, Ishibashi-Ueda H, Hayashi T. : Local aldosterone production via StAR in PAH and in human iPS cell-derived cardiomyocytes: efficacy of spironolactone in cardiac remodeling and mitochondrial dynamics under hypoxic stress., American Heart Association Scientific Sessions 2020, 11 月 (A virtual experience)
- 2) Matsuzaki H, Yamaguchi Y, Yamanaka Y, Tamura M, Nomura A, Imano H, Kato R, Sakamoto E, Ijiri Y, Tanaka K, Yamaguchi T, Izumi Y, Yoshiyama M, Asahi M, Hayashi T. : Defect of beta-B1 crystallin protein accelerates systolic dysfunction induced by intermittent hypoxia. 第 24 回日本心不全学会学術集会, 10 月 (WEB 開催)

病態生化学研究室

学術論文

- 1) T. Maehara, K. Fujimori*. 2020. Contribution of FP receptors in M1 macrophage polarization via IL-10-regulated nuclear translocation of NF- κ B p65. *Biochim Biophys Acta Mol Cell Biol Lipids* **1865**: 158654.
- 2) S. Shinohara, K. Fujimori*.2020. Promotion of lipogenesis by PPAR γ -activated FXR expression in adipocytes. *Biochem Biophys Res Commun* **527**: 49-55.
- 3) A. Masuda, K. Gohda, Y. Iguchi, K. Fujimori, Y. Yamashita, K. Oda, M. Une, N. Teno*.2020. N1-Substituted benzimidazole scaffold for farnesoid X receptor (FXR) agonists accompanying prominent selectivity against vitamin D receptor (VDR). *Bioorg Med Chem* **28**: 115512
- 4) T. Kawakami, A. Koike, T. Maehara, T. Hayashi, K. Fujimori*. 2020. Bicarbonate enhances the inflammatory response by activating JAK/STAT signaling in LPS+IFN- γ -stimulated macrophages. *J Biochem* **167**: 623-631.
- 5) T. Maehara, F. Higashitarumi, R. Kondo, K. Fujimori*.2020. Prostaglandin F2 α receptor antagonist attenuates LPS - induced systemic inflammatory response in mice. *FASEB J* **34**: 15197-15207.

総説

- 1) 小池 敦資*.2020. マクロファージにおける炎症誘導性細胞死の分子機構の解明. *薬学雑誌* **140**: 1427-1432.

解説・プロシーディング・紀要・その他

- 1) 小池 敦資*. 2020. フルクトースによる腸内細菌を介した肝臓の脂質生合成. *ファルマシア* **56**: 1134.

学会発表等

- 1) 小池 敦資, 藤森 功.: メバロン酸経路は TLR3 を介した抗ウイルス応答を制御する. 日本薬学会 第 140 年会, 3 月 (京都 Web 公開)
- 2) 前原 都有子, 藤森 功.: プロスタグランジン F2 α 受容体の阻害は急性肺障害を悪化さ

せる. 日本薬学会 第 140 年会, 3 月 (京都 Web 公開)

- 3) 東垂水 郁圭, 前原 都有子, 藤森 功.: LPS 誘導性敗血症におけるプロスタグランジン F2 α の機能解明. 日本薬学会 第 140 年会, 3 月 (京都 Web 公開)
- 4) 宇野 早紀, 黒田 恭平, 前原 都有子, 藤森 功.: 脂肪細胞が産生するロイコトリエンの機能解析. 日本薬学会 第 140 年会, 3 月 (京都 Web 公開)
- 5) 増田 有沙, 山下 ユキコ, 井口 裕介, 小田 啓祐, 藤森 功, 合田 圭吾, 手納 直規.: Farnesoid X receptor (FXR)アンタゴニストの構造活性相関研究: 薬物動態と標的組織分布の評価. 日本薬学会 第 140 年会, 3 月 (京都 Web 公開)
- 6) 前原 都有子, 藤森 功.: 敗血症におけるプロスタグランジン F2 α の機能解析. フォーラム 2020 衛生薬学・環境トキシコロジー, 9 月 (オンライン開催)
- 7) 小池 敦資, 藤森 功.: メバロン酸経路は TLR3 を介した抗ウイルス応答を制御する. フォーラム 2020 衛生薬学・環境トキシコロジー, 9 月 (オンライン開催)
- 8) 小池 敦資, 藤森 功.: 脂質異常症治療薬であるスタチン系薬剤による Toll-like receptor 3 (TLR3) 経路の抑制機構の解析. 第 93 回日本生化学会大会, 10 月 (オンライン開催)
- 9) 前原 都有子, 藤森 功.: プロスタグランジン F2 α はマクロファージの極性変化を制御する. 第 93 回日本生化学会大会, 10 月 (オンライン開催)
- 10) 宇野 早紀, 黒田 恭平, 前原 都有子, 藤森 功.: リポポリサッカライドとセラストロールが誘導するマクロファージ細胞死誘導機構の解析. 第 70 回 日本薬学会関西支部総会・大会, 10 月 (オンライン@立命館大学)
- 11) 永澤 泰奈, 藤森 功.: 脂肪細胞分化制御におけるステロイドであるブファリンの機能解析. 第 70 回 日本薬学会関西支部総会・大会, 10 月 (オンライン@立命館大学)
- 12) 小池 敦資, 田中 美佑, 芝野 真喜雄, 藤森 功.: リポポリサッカライドとセラストロールが誘導するマクロファージ細胞死誘導機構の解析., 第 70 回 日本薬学会関西支部総会・大会, 10 月 (オンライン@立命館大学)

- 13) 前原 都有子, 藤森 功.: プロスタグランジン F2 α による肺炎制御機構の解明. 第 70 回
日本薬学会関西支部総会・大会, 10 月 (オンライン@立命館大学)
- 14) 小池 敦資.: マクロファージにおける炎症誘導性細胞死の誘導機構の解明. 第 70 回
日本薬学会関西支部総会・大会, 10 月 (オンライン@立命館大学)
- 15) Toko Maehara, Fumiyoshi Higashitarumi, Risa Kondo, Ko Fujimori. : Prostaglandin F2 α
receptor antagonist attenuated LPS-induced sepsis in mice. 第 93 回日本薬理学会年会, 3 月
(横浜, 紙上開催)

生体分析学研究室

学術論文

- 1) Hirata M, Asano A, Magata Y, Ohmomo Y*, Temma T*. 2020. Synthesis and evaluation of novel radioiodinated anthranilate derivatives for in vivo imaging of vascular endothelial growth factor receptor with single-photon emission computed tomography. *Ann Nucl Med* **34**: 486-495.
- 2) Kondo N, Wakamori K, Hirata M, Temma T*. 2020. Radioiodinated bicyclic RGD peptide for imaging integrin $\alpha v \beta 3$ in cancers. *Biochem Biophys Res Commun* **528**: 168-173.

総説

- 1) 近藤 直哉*.2020. 疾患におけるマトリックスメタロプロテアーゼ発現のインビボ定量法構築を目的とした核医学イメージングプローブの開発. *薬学雑誌* **140**: 7-13.

学会発表等

- 1) 若森 恵太, 近藤 直哉, 平田 雅彦, 天満 敬.: 放射性ヨウ素標識二環性 RGD ペプチドのインテグリン $\alpha v \beta 3$ 標的イメージングプローブとしての有効性評価. 日本薬学会 第 140 年会, 3 月 (京都 Web 公開)
- 2) 橋本 知行, 平田 雅彦, 竹口 温子, 花薊 楓, 柿坂 隆志, 吉田 直史, 渡邊 裕之, 飯國 慎平, 小野 正博, 大桃 善朗, 近藤 直哉, 天満 敬.: p38 α イメージングプローブ [123/125I]FIC のテレピン油誘発炎症モデルマウスを用いた有効性評価. 日本薬学会 第 140 年会, 3 月 (京都 Web 公開)
- 3) 高田 慎也, 平田 雅彦, 勝野 宥, 近藤 直哉, 天満 敬.: ホウ素中性子捕捉療法のための CHP-ホウ酸カルシウムナノ粒子の開発に関する基礎的検討. 日本薬学会 第 140 年会 3 月, (京都 Web 公開)
- 4) 平野 楓子, 近藤 直哉, 山下 満帆, 平田 雅彦, 天満 敬.: 3-ボロノフェニルアラニンの LAT1 標的 BNCT 用薬剤としての有効性評価. 日本薬学会 第 140 年会, 3 月 (京都 Web 公開)
- 5) 甲斐 研吾, 平田 雅彦, 栗本 健太, 近藤 直哉, 天満 敬.: 肺がんにおける T790M 変異 EGFR を検出可能とする SPECT 用イメージングプローブの合成. 日本薬学会 第 140 年会, 3 月 (京都 Web 公開)

- 6) 平野 楓子, 近藤 直哉, 天満 敬.: BNCT 用薬剤 4-ボロノフェニルアラニンとその位置異性体の腫瘍集積性比較. 第 70 回 日本薬学会関西支部総会・大会, 10 月 (オンライン @立命館大学)
- 7) 天満 敬.: 不安定性動脈硬化プラークを標的とした中分子型および高分子型イメージング剤の開発戦略. 第 60 回日本核医学会学術総会, 11 月 (兵庫)
- 8) 加川 信也, 平田 雅彦, 大桃 善朗, 西井 龍一, 東 達也, 奥山 智緒, 山内 浩.: アミノ酸輸送システム A に着目した F-18 標識薬剤の合成基礎検討. 第 60 回日本核医学会学術総会, 11 月 (兵庫)

薬剤学研究室

学術論文

- 1) Nakatsuji M, Urakami-Takebayashi Y, Miyadokoro S, Ikeda T, Takehara I, Sun H, Motohashi H, Ohno Y, Nagai J*. 2020. Fatty acids bound to albumin induce prostaglandin E2 production in human renal proximal tubular epithelial cell line HK-2. *Biochem Biophys Res Commun* **53**: 273-277.
- 2) Jin C, Yonezawa A*, Yoshimatsu H, Imai S, Koyanagi M, Yamanishi K, Nakagawa S, Itoharu K, Omura T, Nakagawa T, Nagai J, Matsubara K. 2020. Effect of riboflavin deficiency on development of the cerebral cortex in Slc52a3 knockout mice. *Sci Rep* **10**: 18443.
- 3) Hata H, Mio T, Yamashita D, Matsumura C, Chisaki Y, Motohashi H, Yano Y*. 2020. Factors Associated With Efficacy and Nivolumab-Related Interstitial Pneumonia in Non-Small Cell Lung Cancer: A Retrospective Survey. *Cancer Control* **27**: 1073274820977200.
- 4) 本橋 秀之*, 山本 倭子, 櫻井 登代子, 矢野 義孝, 三浦 誠. 2020. 化学療法による B 型肝炎発症予防対策ガイドライン遵守率向上への薬剤師の貢献. *日本病院薬剤師会雑誌* **56**: 322-326.

学会発表等

- 1) 永井 純也.: アルブミン動態特性を利用した DDS 製剤. 第 2 回 薬系大学と研究開発現場, 臨床現場を繋ぐ医薬品製剤研究会 講演会, 2 月 (門真市)
- 2) 高尾 弥生, 松原 一輝, 松本 耕野, 平井 真由, 竹林 裕美子, 本橋 秀之, 永井 純也.: ヒト肝がん由来 HepG2 細胞における抗がん薬メトトレキサートの細胞内蓄積に及ぼすアントシアニンおよびアントシアニジンの影響. 日本薬学会 第 140 年会, 3 月 (京都 Web 公開)
- 3) 中達 穂, 宮所 冴衣, 池田 豊聡, 金久 奨, 竹林 裕美子, 本橋 秀之, 永井 純也.: 腎近位尿細管上皮細胞へのアルブミン曝露による HIF-1 活性化とプロスタグランジン生成. 日本薬学会 第 140 年会, 3 月 (京都 Web 公開)
- 4) 金 叢芸, 米澤 淳, 吉松 宏樹, 今井 哲司, 小柳 円花, 山西 香里, 中川 俊作, 大村 友博, 中川 貴之, 永井 純也, 松原 和夫.: Slc52a3 遺伝子欠損がマウス大脳皮質の形成に及ぼす影響. 日本薬学会 第 140 年会, 3 月 (京都 Web 公開)

- 5) Hongxin Sun, Yumiko Takebayashi, Hideyuki Motohashi, Junya Nagai. : Highly efficient uptake of poly(lactic-co-glycolic acid) nanoparticles in human adipose-derived stem cells. 日本薬剤学会第 35 年会, 5 月 (熊本 誌上発表)
- 6) 本橋 秀之, 木村 遥華, 井辻 真由, 竹林 裕美子, 永井 純也.: ラットにおける糖尿病マーカー 1,5-anhydroglucitol の体内動態解析. 第 30 回日本医療薬学会年会, 9 月 (Web 発表)
- 7) 孫 紅昕, 水田 朱梨, 坪井 崇洋, 竹林 裕美子, 本橋 秀之, 永井 純也.: ヒト脂肪幹細胞におけるアルブミンと PLGA ナノ粒子取り込み特性の比較解析. 第 70 回 日本薬学会関西支部総会・大会, 10 月 (オンライン@立命館大学)
- 8) 中達 穂, 池田 豊聡, 宮所 冴衣, 竹林 裕美子, 本橋 秀之, 永井 純也.: アルブミン曝露に伴う腎近位尿細管細胞における PGE2 生成と HIF-1 活性化. 第 70 回 日本薬学会関西支部総会・大会, 10 月 (オンライン@立命館大学)

製剤設計学研究室

学術論文

- 1) K. Kadota, S. Nogami, H. Uchiyama, Y. Tozuka*. 2020. Controlled dissolution behavior of curcumin in a kappa-carrageenan gel with metal chloride-mediated flexible texture. *Food Hydrocolloids* **101**: 105564.
- 2) H. Uchiyama, M. Dowaki, K. Kadota, H. Arima, K. Sugiyama, Y. Tozuka*. 2020. Single-stranded β -1,3–1,6-glucan as a carrier for improved the dissolution and membrane permeation of poorly water-soluble compounds., *Carbohydr Polym* **247**: 116698.
- 3) K. Kadota, T.R. Sosnowski, S.Tobita, I. Tachibana, J.Y. Tse, H. Uchiyama, Y. Tozuka*. 2020. A particle technology approach toward designing dry-powder inhaler formulations for personalized medicine in respiratory diseases. *Adv Powder Technol* **31**: 219-226.
- 4) Srivastava, H. Uchiyama, H. Imano, H. Satone, K. Iimura, K. Kadota, Y. Tozuka*. 2020. Enhanced micellization of Gemini surfactants using diphenhydramine hydrochloride as an organic counterion. *J Mol Liq* **300**: 112288.
- 5) K. Kadota*, N. Inoue, Y. Matsunaga, T. Takemiya, K. Kubo, H. Uchiyama, Y. Tozuka*. 2020. Numerical simulations of particle behavior in a respiratory system with varying inhalation patterns. *J Pharm Pharmacol* **72**: 17-28.
- 6) M. Imono, H. Uchiyama, S. Yoshida, S. Miyazaki, N. Tamura, H. Tsutsumimoto, K. Kadota, Y. Tozuka*. 2020. The elucidation of the key factor for oral absorption enhancement of nanocrystal formulations: In vitro - in vivo correlation of nanocrystals. *Euro J Pharm Biopharm* **146**: 84-92.
- 7) K. Kadota, T. Ibe, Y. Sugawara, Y. A. Yusof, H. Uchiyama, Y. Tozuka, S. Yamanaka*. 2020. Production of mesoporous calcium carbonate with controlled specific surface area and its potential to ferulic acid release. *RSC advances* **10**: 28019.
- 8) R. Okura*, H. Uchiyama, K. Kadota, Y. Tozuka*. 2020. New Salt and Cocrystal of Mequitazine: Impact of Coformer Flexibility and Hydrogen Bonding Donor on Polymorphism. *Cryst Growth Des* **20**: 7219-7229.

- 9) K. Kadota*, M. Tanaka, H. Nishiyama, J. Y. Tse, H. Uchiyama, Y. Shirakawa, Y. Tozuka*. 2020. An effective approach to modifying inhalable betamethasone powders by morphology and surface control with a bio-surfactant. *Powder Technol* **376**: 517-526.
- 10) Kitayama, K. Kadota*, Y. Tozuka, A. Shimosaka, M. Yoshida, Y. Shirakawa. 2020. Molecular aspects of glycine clustering and phase separation in an aqueous solution during anti-solvent crystallization. *Cryst Eng Comm* **22**: 5182.

総説

- 1) 門田和紀*. 2020. 分子シミュレーションによる溶液からの結晶化形成機構に関する検討. *バイオマテリアル* **38**:260-265.

著書

- 1) 戸塚 裕一. 2020. 熱量測定熱分析ハンドブック 第3版, 5. 5. 19 多孔性物質と薬物の相互作用, 丸善出版株式会社, pp.315.

特許

- 1) 戸塚 裕一, 門田 和紀, 内山 博雅.: 呼吸器系医薬品粉末及びその製造方法. 特願 2020-075983, キューピー株式会社

学会発表等

- 1) S. Nogami, H. Uchiyama, K. Kadota, Y. Tozuka. : Evaluation of the pH-responsive oral gel formulations for controlled drug release., Virtual Annual Meeting 2020, Controlled Release Society, 6 月 (オンライン開催)
- 2) 戸塚 裕一.: 機能性食品中に含有される難水溶性有効成分の可溶化技術: 薬学研究の視点からの戦略. 第 11 回岐阜薬科大学機能性健康食品研究講演会, 10 月 (岐阜)
- 3) 戸塚 裕一.: 分子間相互作用に基づく機能性粒子・ナノ集合体の調製と医薬品・食品産業への新規処方提案. 令和 2 年度第 2 回メディショナルナノテク研究会, 11 月 (京都)

- 4) 野上 聡, 内山 博雅, 門田 和紀, 戸塚 裕一.: 腸溶性ポリマーを含むゼラチン経口ゼリー剤の設計と評価. 日本薬学会 第 140 年会, 3 月 (京都 Web 公開)
- 5) 南岡 咲希, 内山 博雅, 門田 和紀, 戸塚 裕一.: グリチルリチン酸モノアンモニウムのミセル形成とゲル化に及ぼす糖転移ステビアの影響. 日本薬学会 第 140 年会, 3 月 (京都 Web 公開)
- 6) 謝晉頤, 内山 博雅, 門田 和紀, 戸塚 裕一.: Evaluation of dry powder inhaler formulations with enhanced extra-fine particle fraction using phytoglycogen as an excipient for adhesive mixtures. 日本薬剤学会第 35 年会, 5 月 (熊本 誌上発表)
- 7) 松永 佳宏, 内山 博雅, 門田 和紀, 戸塚 裕一.: 吸入速度および吸入パターン変化が与える気管支内での粒子挙動への影響. 日本薬剤学会第 35 年会, 5 月 (熊本 誌上発表)
- 8) 内山 博雅, 南岡 咲希, 門田 和紀, 戸塚 裕一.: グリチルリチン酸アンモニウムのミセル形成とゲル化に及ぼす酵素処理ステビアの影響. 日本薬剤学会第 35 年会, 5 月 (熊本 誌上発表)
- 9) 門田 和紀, 斎藤 香菜子, 内山 博雅, 戸塚 裕一.: デキストランを基剤とした二成分の医薬品を含む吸入粉末剤の設計. 粉体工学会 2020 年度 春期研究発表会, 5 月 (兵庫)
- 10) 内山 博雅, 門田 和紀, 戸塚 裕一.: フラボノイド化合物間での非晶質複合体形成による溶解性および膜透過性改善. 日本食品化学学会 第 26 回学術大会講, 5 月 (奈良)
- 11) 門田 和紀, 山中 真也, 内山 博雅, 戸塚 裕一.: 多孔質炭酸カルシウムによるフェルラ酸の溶出制御. 日本海水学会 第 71 年会, 6 月 (東京)
- 12) 畑中 友太, 内山 博雅, 門田 和紀, 戸塚 裕一.: 膜透過性改善を指向したコアモルファス技術の構築とエマルションへの応用. 第 70 回 日本薬学会関西支部総会・大会, 10 月 (オンライン@立命館大学)

社会薬学・薬局管理学研究室

学術論文

- 1) K. Yamabe, Y. Arakawa, M. Shoji, M. Onda*, K. Miyamoto, T. Tsuchiya, Y. Akeda, K. Terada, K. Tomono, 2020. Direct anti-bilfilm effects of macrolides on *Acinetobacter baumannii*: comprehensive and comparative demonstration by a simple assay using microtiterplate combined with peg-lid. *Biomedical Research* **41**(6): 259-268.
- 2) R. Hashimoto, K. Fujii, S. Shimoji, T. Nakamura, M. Onda*.2020. A Case Improving Somnolence Through Pharmacist Intervention with Special Nursing Home Resident. *Journal of Geriatric Pharmacy* **3**(2): 25-29.
- 3) M. Shoji*, A. Fujiwara, A. Shimada, M. Onda. 2020. The relationship between community pharmacists' social distance from and their confidence in interacting with patients with depression in Japan. *International Journal of Clinical Pharmacy* **42**(6):1499-1506.
- 4) 上田 昌宏, 高垣 伸匡, 恩田 光, 荒川 行生, 庄司 雅紀, 大森 志保, 清水 忠*. 2020. 薬学生を対象とした EBM 教育におけるチーム基盤型学習の導入とその評価. *Yakugaku Zasshi* **140**(2):301-312.
- 5) 庄司 雅紀*, 藤原 篤子, 今福 輪太郎, 島田 京司, 恩田 光子. 2020. 薬局薬剤師が抗うつ薬の服用に抵抗感を抱く患者に対して実践している工夫に関するテキストアナリシス. *日本精神薬学会誌* **4**: 42-49.

総説

- 1) 庄司 雅紀*. 2020. 薬学生のコミュニケーション教育のさらなる強化に向けてー臨床研究結果の教育への応用に着目した検討ー. *薬学教育* **4**.

解説・プロシーディング・紀要・その他

- 1) 恩田 光子*. 2020. 「大阪府後発医薬品安心使用促進事業におけるジェネリック医薬品に関する調査報告」からの考察. *健康保険* **8**:13-15.

- 2) 恩田 光子*, 森本 哲史, 芦田 泰弦. 2020. 薬局における認知症対応力向上への課題(第2回) アウトリーチ活動での『お困りごとカード』収集事例からの考察. *東京都薬剤師会雑誌* **42(3)**: 42-45.
- 3) 恩田 光子*. 2020. 第4章アメリカにおける調査結果. *令和元年年度厚生労働省保健局医療課による委託事業薬剤師用状況等に関する調査研究報告書*. 171-237.

学会発表等

- 1) M. Onda. : Overview of the National Health Insurance System and role expectation to community pharmacy in Japan. 2020 Forbidden City International Pharmacist Forum, 5 月 (Beijing, China)
- 2) 恩田 光子.: 女性医学のために必要な他職種連携について：ポリファーマシー回避のための医師と薬剤師の連携. 第25回 日本女性医学学会, 3 月 (大阪)
- 3) 橋本 良太, 藤井 景子, 下路 静佳, 中村 敏明, 恩田 光子.: 特別養護老人ホームの入所者を対象とした薬剤師の介入による傾眠の改善. 第4回日本老年薬学会学術大会, 5 月 (神戸)
- 4) 中川 あや, 井上 美香子, 庄司 雅紀, 恩田 光子.: ジェネリック医薬品の製造販売承認審査項目等に関する薬局薬剤師の知識と患者への説明内容の関連. 日本薬学会 第140年会, 3 月 (京都 Web 公開)
- 5) 井上 美香子, 中川 あや, 庄司 雅紀, 恩田 光子.: ジェネリック医薬品の選択において薬局薬剤師が参考になっている情報とその情報源. 日本薬学会 第140年会, 3 月 (京都 Web 公開)
- 6) 実久 茂樹, 庄司 雅紀, 恩田 光子.: かかりつけ薬局の有無とその関連要因：子供向けお薬教室に参加した保護者を対象とした調査からの考察. 日本薬学会 第140年会, 3 月 (京都 Web 公開)
- 7) 恩田 光子.: [医療安全] ポリファーマシーに関する社会薬学的考察. 奈良薬剤師会研修会, 12 月 (奈良)

- 8) 庄司 雅紀, 前田 初代, 藤原 篤子, 渡邊 文之, 田沼 和紀, 岩永 友介, 島田 京司, 恩田 光子.: 認知行動療法を応用した服薬支援が , うつ病患者の服薬アドヒアランス等に与える効果に関する非無作為化比較試験. 第 53 回日本薬剤師会学術大会, 10 月 (札幌)
- 9) 石田 理紗, 庄司 雅紀, 藤原 篤子, 島田 京司, 恩田 光子.: 薬局薬剤師の「うつ病患者に対する社会的距離」と「うつ病に対する理解」との関連. 第 53 回日本薬剤師会学術大会, 10 月 (札幌)
- 10) 庄司 雅紀.: 薬局における , 認知行動療法を応用した服薬支援の実践報告－介入研究中的の取り組みより－. 第 20 回日本認知療法・認知行動療法学会, 11 月 (京都)
- 11) M. Onda. : Pharmacist Education and professionalism in Japan and the United States. 第 30 回日本医療薬学会年会. International Symposium1, 10 月 (名古屋)

臨床薬学教育研究センター

学術論文

- 1) Kazuhiko Yamashita, Takashi Ogihara, Maho Hayashi, Takayuki Nakagawa, Yuma Ishizaki, Manabu Kume, Ikuko Yano, Riho Niigata, Jun Hiraoka, Hiroyuki Yasui, Tsutomu Nakamura*. 2020. Association between dexamethasone treatment and alterations in serum concentrations of trace metals. *Pharmazie* **75(5)**: 218-222.
- 2) Mayako Uchida, Yuki Yamaguchi, Syuhei Hosomi, Hiroaki Ikesue, Nami Maegawa, Aoi Takano, Yuki Sato, Keiko Hosohata, Nobuyuki Muroi, Keisuke Tomii, Tohru Hashida, Tsutomu Nakamura*. 2020. Risk factors for febrile neutropenia induced by docetaxel chemotherapy in patients with non-small cell lung cancer. *Biol Pharm Bull* **43(8)**: 1235-1240.
- 3) Mayako Uchida, Yasuhiro Mori, Kenta Akiba, Moena Miyasaka, Tatsuya Hirano, Hiroaki Ikesue, Yuki Yamaguchi, Aoi Takano, Nami Maegawa, Yoshimitsu Shimomura, Keiko Hosohata, Nobuyuki Muroi, Takayuki Ishikawa, Tohru Hashida, Tsutomu Nakamura*. 2020. Risk factors for skin toxicities associated with bendamustine-based chemotherapy in patients. *Biol Pharm Bull* **43(10)**: 1577-1582.
- 4) Hosohata K*, Inada A, Oyama S, Doi T, Niinomi I, Wakabayashi T, Uchida M, Iwanaga K, Matsuoka H. 2020. Improvement of Blood Pressure Control by Adherence Check in Patients With Apparent Treatment-Resistant Hypertension: A Case Series. *Clin Med Insights Case Rep* **13**: 1179547620904884.
- 5) Niinomi I, Hosohata K*, Oyama S, Inada A, Wakabayashi T, Iwanaga K. 2020. Evaluation of adverse events associated with filgrastim originator and biosimilar using a spontaneous reporting system database. *Pharmazie* **75**: 151-153.
- 6) Hosohata K*, Matsuoka H, Iwanaga K, Kumagai E. 2020. Urinary vanin-1 associated with chronic kidney disease in hypertensive patients: A pilot study. *J Clin Hypertens (Greenwich)* **22**: 1458-1465.
- 7) Wakabayashi T, Hosohata K*, Oyama S, Inada A, Ueno S, Kambara H, Iida T, Nakatsuji T, Uchida M, Iwanaga K. 2020. Comparison of Adverse Event Profiles of Tumor Necrosis Factor-Alpha Inhibitors: Analysis of a Spontaneous Reporting Database. *Ther Clin Risk Manag* **16**: 741-747.

- 8) Niinomi I, Hosohata K*, Oyama S, Inada A, Hirai T, Iwanaga K. 2020. Drug-induced thrombotic microangiopathy using the Japanese pharmacovigilance database. *Int J Clin Pharmacol Ther* **58**: 543-549.
- 9) Kambara H, Hosohata K*, Nakatsuji T, Ueno S, Oyama S, Inada A, Niinomi I, Wakabayashi T, Iwanaga K. 2020. Safety profile of vonoprazan compared with proton pump inhibitors: insight from a pharmacovigilance study. *Pharmazie* **75**: 527-530.
- 10) Shigematsu N, Kawashiri T*, Kobayashi D, Shimizu S, Mine K, Hiromoto S, Uchida M, Egashira N, Shimazoe T. 2020. Neuroprotective effect of alogliptin on oxaliplatin-induced peripheral neuropathy in vivo and in vitro. *Sci Rep* **10**: 6734.
- 11) R. Hashimoto, K. Fujii, S. Shimoji, T. Nakamura, M. Onda. 2020. A Case Improving Somnolence Through Pharmacist Intervention with Special Nursing Home Resident. *日本老年薬学会雑誌* **2**: 25-29.
- 12) Hirai T, Yamada R, Motoki K, Hosohata K, Itoh T. 2020. Geriatric patients are at a high risk of hypokalemia associated with Yokukansan preparation: a retrospective cohort study. *Biol Pharm Bull* **43**: 1742-1748.
- 13) Washino S, Hosohata K, Miyagawa T. 2020. Roles played by biomarkers of kidney injury in patients with upper urinary tract obstruction. *Int J Mol Sci* **21**: E5490.
- 14) Kumagai E, Hosohata K, Furumachi K, Takai S. 2020. Range of plasma brain natriuretic peptide (BNP) levels in hemodialysis patients at high risk of 1-year mortality and their relationship with the nutritional status: A retrospective cohort study in one institute. *Renal Replacement Therapy* **6**: 32.
- 15) Hosohata K, Kikuya M, Asayama K, Metoki H, Imai Y, Ohkubo T. 2020. Comparison of nocturnal blood pressure based on home versus ambulatory blood pressure measurement: The Ohasama Study. *Clin Exp Hypertens* **42**: 685-691.
- 16) Takaya Uno, Kyoichi Wada, Kouichi Hosomi, Sachi Matsuda, Megumi Morii Ikura, Hiromi Takenaka, Nobue Terakawa, Akira Oita, Satoshi Yokoyama, Atsushi Kawase, Mitsutaka Takada. 2020. Drug interactions between tacrolimus and clotrimazole troche: a data mining approach

followed by a pharmacokinetic study. *European Journal of Clinical Pharmacology* **76(1)**: 117-125.

- 17) Kanbayashi Y*, Sakaguchi K, Ishikawa T, Ouchi Y, Nakatsukasa K, Tabuchi Y, Kanehisa F. 2020. Comparison of the efficacy of cryotherapy and compression therapy for preventing nanoparticle albumin-bound paclitaxel-induced peripheral neuropathy: A prospective self-controlled trial. *Breast* **49**:219-224.
- 18) Kanbayashi Y*, Ishikawa T, Tabuchi Y, Sakaguchi K, Ouchi Y, Otsuji E, Takayama K, Taguchi T. 2020. Predictive factors for the development of proteinuria in cancer patients treated with bevacizumab, ramucirumab, and aflibercept: a single-institution retrospective analysis. *Sci Rep* **10(1)**:2011.
- 19) Kanbayashi Y*, Amaya F, Ikoma K, Ueno H, Tabuchi Y, Ishikawa T, Takayama K, Taguchi T. 2020. Predictors of the usefulness of mirogabalin for neuropathic pain: a single-institution retrospective study. *Pharmazie* **75(11)**:602-605.
- 20) Horii T*, Konishi H, Kanbayashi Y. 2020. The Influence of Pre-Treatment with a Proton Pump Inhibitor / H2. *Japanese Journal of gastroenterology and hepatology* **V5(2)**: 1-2.
- 21) 石村 智加子*, 青原 未佳, 坂本 徹, 古谷 裕一, 古谷 憲次, 古川 綾, 角山 香織, 中村 敏明. 2020. 薬学的管理における副作用管理支援システム（マディア・スピーク®）の有用性評価. *医薬品情報学* **22**: 108-115.
- 22) 角山 香織*, 駒澤 伸泰, 大橋 尚弘, 土肥 美子, 土手 友太郎, 赤澤 千春, 中村 敏明, 中野隆史, 寺崎 文生, 河田 了. 2020. 災害対応を主題とした Problem-based learning を用いた多職種連携教育の試み. *新しい医学教育の流れ*. **20**: 1-7.

総説

- 1) 神林 祐子*. 2020. 【Evidence Update 2020 最新の薬物治療のエビデンスを付加的に利用する】エキスパートが注目する最新エビデンスをアップデート! 鎮痛薬. *薬局* **71**: 135 – 139.

著書

- 1) 内田 まやこ* 2020. 第1章 総論. 2. 有効性・安全性を正しく評価するために., “フローチャート抗がん薬副作用“, じほう(東京). pp.10-17.
- 2) 内田 まやこ* 2020. 第1章 がん種別 薬物治療の概要. 7.慢性骨髄性白血病, 8.多発性骨髄腫. 第2章 経口抗がん薬の特徴と使い方. 【分子標的薬】④チロシンキナーゼ阻害薬(BCR-ABL 阻害薬), ⑪プロテアソーム阻害薬, 【免疫調節薬(IMiDs)], 【ステロイドに関する諸注意】, 第4章 疼痛緩和治療薬., “薬局で役立つ経口抗がん薬～はじめの一步～“, 羊土社(東京). pp.32-39, 146-191, 286-294, 333-362, 363-365, 378-387.
- 3) 内田 まやこ* 2020. 第3章 がん薬物療法. 24.慢性骨髄性白血病. “がん薬物療法のひきだし“, 医学書院(東京). pp.251-264.
- 4) 内田 まやこ* 2020. 第15章 がん薬物療法の有害事象と支持療法 3. 消化器毒性, 5. 心毒性, 6. 神経障害, 7. インフュージョンリアクション)., “図解 腫瘍薬学“, 南山堂(東京). pp. 590-604, 610-622.
- 5) 内田 まやこ* 2020. 第V章 毒性と合併症の対策, 注意点. 3. 悪心・嘔吐の予防と治療., “白血病治療マニュアル改訂第4版“, 南江堂(東京). pp.276-283.
- 6) 中村 敏明*, 角山 香織 2020. 第2章 それぞれの部署や状況における多職種連携 16 病院薬剤部、地域薬局の連携、実践 多職種連携教育、寺崎文生、赤澤千春編、中外医学社（東京）. pp. 176-179.
- 7) 角山 香織*, 津田 真弘 2020. 循環器疾患の薬物一覧 “循環器疾患最新の治療 2020-2021” 伊藤浩、山下武志編集、南江堂（東京）. pp.425-484.
- 8) 角山 香織 2020. 第3章 さまざまな多職種連携教育の実践方法. 10.合同PBL（4）災害時対応,” 実践 多職種連携教育” 寺崎文生、赤澤千春監修、中外医学社（東京）. pp.231-234.
- 9) 角山 香織 2020. 第1章 それぞれの医療者の役割と成長過程. 8.薬剤師の役割と育成課程,” 実践 多職種連携教育” 寺崎文生、赤澤千春監修、中外医学社（東京）. pp.45-49.

- 10) 角山 香織 2020. 製剤学（製剤学とは、経口投与する製剤、口腔内に適用する製剤、注射により投与する製剤、気管支・肺に適用する薬剤、眼に投与する薬剤）、”薬がみえる Vol.4” 医療情報科学研究所編集、メディックメディア（東京）. pp.214-234.
- 11) 和田 恭一*, 猪又 孝元. 2020. 第1章 循環器疾患 5.心筋症 ”臨床薬学 テキストシリーズ 循環器/腎・泌尿器/代謝/内分泌” 乾賢一 監修、中山書店（東京）. pp.74-79
- 12) 和田 恭一*. 2020. 第2章 精神・中枢神経の病気とくすり 脳卒中 第5章 循環器の病気とくすり 心不全 ”病気とくすり 2020” 、南山堂（東京）. pp.125-134, pp.398-407
- 13) 和田 恭一*. 2020. 付録 抗腫瘍薬と循環器治療薬の相互作用一覧 ”単用循環器診療ハンドブック” 小室一成 監修、メジカルレビュー社. pp.219-224
- 14) 神林 祐子*. 2020. 第10章 ホルモン療法薬"がん薬物療法のひきだし 腫瘍薬学の基本から応用まで"松尾 宏一 / 緒方 憲太郎 / 林 稔展 編集, 医学書院（東京）. pp.98-105.
- 15) 神林 祐子*. 2020. 第11章 免疫療法薬"がん薬物療法のひきだし 腫瘍薬学の基本から応用まで"松尾 宏一 / 緒方 憲太郎 / 林 稔展 編集, 医学書院（東京）. pp.106-110.
- 16) 神林 祐子*. 2020. 【病気とくすり 2020 基礎と実践 Expert's Guide】病原微生物・悪性新生物とくすり 悪性腫瘍 がん疼痛. pp.1624-1633.

解説・プロシーディング・紀要・その他

- 1) 内田 まやこ*, 高瀬久光. 2020. ポリファーマシー、薬剤師の一步前進に期待！ レシピプラス 2020 年冬号, 南山堂, **19(1)**: 119.
- 2) 内田 まやこ*, 矢野 良一. 2020. 薬剤師ふたばの症例検討奮闘記, 症例検討会本番一議論を深めるために－. 薬局 2020 年 71 巻 5 月号, 南山堂, **71(6)**: 2573-2583.
- 3) 内田 まやこ*. 2020. 本邦における医療リアルワールドデータ利活用の実例. 薬事新報 **3148**: 491-497.

- 4) 内田 まやこ*. 2020. 緩和ケア領域のポリファーマシーに対する病院薬剤師の積極的な介入実態. *薬事新報* **3152**: 588-600.
- 5) 内田 まやこ*. 2020. 緑陰随想, 自粛生活で感じたこと. *薬事新報* **3158**:757.
- 6) 内田 まやこ*. 2020. 発熱性好中球減少症の予測因子に関する後ろ向き観察研究. *薬事新報* **3154**: 641-648.
- 7) 内田 まやこ*. 2020. 皮膚障害の予測因子に関する後ろ向き観察研究. *薬事新報* **3174**: 1155-1163.
- 8) 内田 まやこ*. 2020. Report, がん化学療法誘発悪心・嘔吐の予防と治療①. *薬局* 2020 年 71 巻 7 月号, 南山堂, **71(8)**: 88-91.
- 9) 内田 まやこ*. 2020. Report, がん化学療法誘発悪心・嘔吐の予防と治療②. *薬局* 2020 年 71 巻 8 月号, 南山堂, **71(9)**: 165-169.
- 10) 内田 まやこ*. 2020. Report, がん化学療法誘発悪心・嘔吐の予防と治療③. *薬局* 2020 年 71 巻 9 月号, 南山堂, **71(10)**: 144-146.
- 11) 内田 まやこ*. 2020. Report, がん治療の有効性と安全性の評価基準. *薬局* 2020 年 71 巻 10 月号, 南山堂, **71(11)**: 166-170.
- 12) 内田 まやこ*. 2020. Report, 服薬指導の充実とチーム医療推進に向けた実践例. *薬局* 2020 年 71 巻 11 月号, 南山堂, **71(12)**: 96-100.
- 13) 中村 敏明, 橋本 梨紗, 西村 春香, 米田 杏寿美, 角山 香織* 2020. 新しい患者向け医薬品情報提供資材「こんな時どうするの?」の必要性の評価. *大阪薬科大学紀要*, **14**: 159-164.
- 14) 西村 桂子*, 角山 香織, 楠本 正明 2020. シンポジウム 3 「『医薬協業』を推進する医療人教育」. *アプライド・セラピューティクス*, **14**: 7-9.
- 15) 中村 敏明*: 検査値リスト. *治療薬ハンドブック 2019*, 高久史磨 監修、堀正二 他編、じほう（東京）
- 16) 和田 恭一*. 2020. 抗血小板薬の UP TO DATE. *循環器制御* **41**:74-80.

- 17) 堀井 孝容*, 小西 英幸, 神林 祐子, 伊藤 義人. 2020. クラリスロマイシンやアモキシシリンと同様の CYP で代謝される薬剤の併用は P-CAB を用いた H.pylori 一次除菌率に影響を与えるか? 日本消化器病学会雑誌 117(臨増総会):A220 - A220.

学会発表等

- 1) Hiromi Takenaka, Kenta Minagawa, Kaori Yamanishi, Ayumi Fukuda, Akira Oita, Kyoichi Wada, Keiichiro Iwasaki, Koichi Toda, Kensuke Kuroda, Osamu Seguchi, Masanobu Yanase, Norihide Fukushima. : Nutritional management to avoid metabolic decompensation at major surgeries in a patient with propionic acidemia related cardiomyopathy: a case report. TTS2020 (28th International Congress of The Transplantation Society)
- 2) 田中 菜波, 音窪 麻衣, 中村 任, 岩永 一範.: ピペラジン骨格を有する薬物の溶解性におよぼす茶葉飲料の影響に関する検討. 日本薬学会第 140 年会, 3 月 (京都、誌上開催)
- 3) 石崎 裕馬, 荻原 孝史, 林 真穂, 中川 貴之, 山下 和彦, 久米 学, 矢野 育子, 平岡 純, 安井 裕之, 中村 任.: マウス血清中バイオメタル濃度に及ぼすシスプラチン、オキサリプラチンおよびデキサメタゾンの影響. 日本薬学会第 140 年会, 3 月 (京都、誌上開催)
- 4) 矢野 秋穂, 音窪 麻衣, 岩永 一範, 中村 任.: アンジオテンシン受容体拮抗薬における先発医薬品の処方数に及ぼす後発医薬品販売品目数の影響 ～バルサルタン錠とカンデサルタン錠について～. 第 70 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (WEB 開催: 立命館大学)
- 5) 北尾 昂志, 音窪 麻衣, 和田 恭一, 岩永 一範, 中村 任.: ミコフェノール酸モフェチルの溶解性に及ぼす Mg および pH 変化の影響. 第 70 回日本薬学会近畿支部総会・大会 (WEB 開催: 立命館大学)
- 6) 川尻 雄大, 小林 大介, 内田 まやこ, 島添 隆雄.: 抗がん薬使用後の白血病および骨髄異形成症候群の発現リスクに関する有害事象自発報告データベースを用いた解析. 日本薬学会第 140 年会, 3 月 京都

- 7) 音窪 麻衣, 内田 まやこ, 井上 薫, 金 美恵子, 河合 悦子, 中村 敏明.: 保険薬局薬剤師を対象とした無菌調製実技セミナーに関する有用性評価. 第 30 回日本医療薬学会年会, 9 月 (名古屋)
- 8) 葉田 昌, 山田 真裕, 内田 まやこ, 因間 大悟, 有吉 俊二, 神村 英利, 原口 亨.: がん緩和医療における薬剤師育成のための卒後研修 2 年後の受講者の行動変化調査. 第 30 回日本医療薬学会年会, 9 月 (名古屋)
- 9) 根来 寛, 重森 美奈, 小島 すみれ, 山下 慎司, 渡邊 享, 矢野 良一, 塚本 仁. 後藤 伸之.: BMI がカルボプラチン+エトポシドの重篤な血小板減少の発現と治療効果に与える影響. 第 30 回日本医療薬学会年会, 10 月 (名古屋・WEB 開催)
- 10) 井倉 恵, 中北 和樹, 宇野 貴哉, 竹中 裕美, 松田 紗知, 小田 亮介, 和田 恭一, 中村 任, 服部 雄司, 築瀬 正伸, 早川 直樹, 福嶋 教偉.: 補助人工心臓装着時の抗 MRSA 薬とワルファリンの相互作用. 第 30 回日本医療薬学会年会, 10 月 (名古屋・WEB 開催)
- 11) 井倉 恵, 中村 任, 宇野 貴哉, 中北 和樹, 竹中 裕美, 松田 紗知, 小田 亮介, 和田 恭一, 服部 雄司, 瀬口 理, 築瀬 正伸, 早川 直樹, 福嶋 教偉.: 心移植患者におけるタクロリムス薬物動態に及ぼすアムホテリシン B 併用の影響. 第 56 回日本移植学会総会, 11 月 (山形・WEB 開催)
- 12) 角山 香織, 駒澤 伸泰, 佐々木 綾子, 赤澤 千春, 寺崎 文生, 中村 敏明.: 大学間の物理的課題を乗り越える多職種連携教育の授業方法の評価. 第 52 回日本医学教育学会大会, 7 月 (紙上発表)
- 13) 鈴木 富雄, 島田 史生, 関根 一臣, 真継 和子, 佐野 かおり, 中村 敏明, 角山 香織, 倉田里穂, 佐野 正幸. 高知県多職種連携地域医療実習の試み(第 4 報). 第 52 回日本医学教育学会大会, 7 月 (紙上発表)
- 14) 片岡 憲昭, 倉地 果純, 窪田 理沙, 坂井 紀水, 鈴木 典子, 西原 雅美, 角山 香織, 中村 敏明, 内山 和久.: 病院実務実習で最も習得したアウトカムと要因解析～学生アンケート調査より～. 第 30 回日本医療薬学会年会, 10 月 (名古屋・WEB 開催)
- 15) 駒澤 伸泰, 角山 香織, 土肥 美子, 大橋 尚弘, 土手 友太郎, 中野 隆史, 佐々木 綾子, 寺崎 文生, 赤澤 千春, 河田 了.: 多学部教員合同による多職種連携教育テキストブックの作成経験. 第 52 回日本医学教育学会大会, 7 月 (紙上発表)

- 16) 佐藤 卓史, 角山 香織, 倉田 里穂, 庄司 雅紀.: 質的分析入門～コーディングとその後の解析に少し触れてみよう～. 第5回日本薬学教育学会大会, 9月 (Web開催、ライブ&オンデマンド配信)
- 17) 角山 香織, 串畑 太郎, 清水 忠, 上田 昌彦, 向井 啓, 安原 智久.: 臨床準備教育の方略を考える～近畿地区統一評価基準の活用を踏まえて～. 第5回日本薬学教育学会大会, 9月 (Web開催、ライブ&オンデマンド配信)
- 18) 竹中 裕美, 皆川 健太, 山西 香織, 福田 あゆみ, 和田 恭一, 岩崎 慶一郎, 瀬口 理, 老田 章, 築瀬 正伸, 福嶋 教偉.: 心臓移植待機中に度重なる侵襲を経験したプロピオン酸血症患者の栄養管理の一例. 第35回日本臨床栄養代謝学会学術集会, (オンライン)
- 19) 神林 祐子.: シンポジウム 7 「広がり深まる Oncology Pharmacist の役割」がん領域における薬学教育. 第41回日本病院薬剤師会近畿学術大会, 2月 (神戸)
- 20) 神林 祐子, 石川 剛, 田淵 祐輔, 菅谷 和子, 中嶋 佑樹, 松岡 正美, 栗生 宜明, 伊藤 義人, 大辻 英吾, 田口 哲也.: 大腸がん患者における血管新生阻害剤によるタンパク尿発症のバイオマーカーの探索. 第58回日本癌治療学会学術集会, 10月(京都)

衛生化学研究室

学術論文

- 1) Ueda M, Komiya C, Arii S, Kusumoto K, Denda M, Okuhira K, Shigenaga A, Otaka A. 2020. Sequence-Independent Traceless Method for Preparation of Peptide/Protein Thioesters Using CPaseY-Mediated Hydrazinolysis. *Chem Pharm Bull (Tokyo)* **68(12)**:1226-1232.

解説・プロシーディング・紀要・その他

- 1) 東 剛志*. 2020. 環境中の抗インフルエンザ薬による感染症流行の疫学解析. *水環境学会誌*. **43**:313-316.
- 2) 東 剛志*. 2020. 医療機関の排水を対象にした高度水処理技術の有効性評価. 公益財団法人 クリタ水・環境科学振興財団 平成 31 年度国内研究助成事業, 研究報告書
- 3) 東 剛志*. 2020. 都市部を流れる河川流域を対象にした薬剤耐性菌の特性解析. 公益財団法人 河川財団 平成 31 年度河川基金助成事業 調査・試験・研究部門, 研究報告書
- 4) 東 剛志*. 2020. 臨床領域で対策が求められている薬剤耐性菌の河川環境中における動態. 公益財団法人 琵琶湖・淀川水質保全機構 平成 31 年度水質保全研究助成事業, 研究報告書

学会発表等

- 1) 奥平 桂一郎.: 脂質トランスポーターABCA7 の発現制御機構解明に向けた研究. 第 15 回トランスポーター研究会年会, 10 月 (Web 開催)
- 2) 奥平 桂一郎.: 動脈硬化性疾患を標的とした HDL 創薬への挑戦/アカデミックキャリアについて考えること. 徳島大学大学院医歯薬学研究部・BRIGHT 合同公開シンポジウム, 12 月 (徳島)
- 3) 東 剛志.: 医療排水を対象とした薬剤耐性菌への塩素消毒とオゾン処理. 日本医療・環境オゾン学会設立 25 周年記念総会・学術大会, 日本薬学会長井記念館ホール, 4 月 (東京)

- 4) 東 剛志.: 医療排水中における抗菌薬及び耐性菌の存在と高度処理技術の開発. 動物用抗菌剤研究会 第 47 回シンポジウム, 4 月 (東京)
- 5) 東 剛志.: 医療分野におけるオゾン処理の有効性ー病院排水への応用研究の取り組みー. 日本オゾン協会第 29 回年次研究講演会, 6 月 (東京)
- 6) 片田 理志, 福田 昭, 東 剛志, 高田 秀重, 臼井 優.: 乳牛糞便の堆肥化及び嫌気性消化による抗菌薬量・薬剤耐性菌数・薬剤耐性遺伝子量への影響の解明. 第 163 回日本獣医学会学術集会, 9 月 (山口)

感染制御学研究室

学術論文

- 1) P. Gee, MSY. Lung, Y. Okuzaki, N. Sasakawa, T. Iguchi, Y. Makita, H. Hozumi, Y. Miura, LF. Yang, M. Iwasaki, XH. Wang, MA. Waller, N. Shirai, YO. Abe, Y. Fujita, K. Watanabe, A. Kagita, KA. Iwabuchi, M. Yasuda, H. Xu, T. Noda, J. Komano, H. Sakurai, N. Inukai, A. Hotta. 2020. Extracellular nanovesicles for packaging of CRISPR-Cas9 protein and sgRNA to induce therapeutic exon skipping. *Nat Commun* **11**:1334.
- 2) H. Yoshiyama, K. Ueda, J. Komano, H. Iizasa. 2020. Infection-Associated Cancers. *J Oncol* Article ID 4979131
- 3) N. Okai, K. Miyamoto*, K. Tomoo, T. Tsuchiya, J. Komano, T. Tanabe, T. Funahashi, H. Tsujibo. 2020. VuuB and IutB reduce ferric-vulnibactin in *Vibrio vulnificus* M2799. *Biometals* **33**:187-200.
- 4) T. Tsuchida, K. Susa, T. Kibiki, T. Tsuchiya, K. Miyamoto, Y. In, K. Minoura, T. Taniguchi, T. Ishida, K. Tomoo*. 2020. Crystal structure of the human tau PHF core domain VQIINK complexed with the Fab domain of monoclonal antibody Tau2r3. *FEBS Letters* **594**:2140-2149.
- 5) K. Yamabe, Y. Arakawa, M. Shoji, M. Onda*, K. Miyamoto, T. Tsuchiya, Y. Akeda, K. Terada, K. Tomono. 2020. Direct anti-biofilm effects of macrolides on *Acinetobacter baumannii*: comprehensive and comparative demonstration by a simple assay using microtiter plate combined with peg-lid. *Biomed Res* **41**:259-268.

学会発表等

- 1) 中川 理花, 浮村 聡, 川西 史子, 柴田 有理子, 鈴木 陽一, 大井 幸昌, 中野 隆史, 駒野 淳.: 大阪医科大学附属病院における 2019 年に分離された ESBL 産生大腸菌の POT 型解析. 第 91 回日本感染症学会西日本地方会学術集会, 11 月 (福岡)
- 2) 八木 真裕子, 浜 みなみ, 中嶋 友里江, 上林 大起, 倉田 貴子, 遊佐 宏介, 駒野 淳.: CRISPR-KO screen to identify cellular factors supporting rubella virus persistent infection. 第 43 回日本分子生物学会年会, 12 月 (オンライン開催)

- 3) 徳山 夏実, 宮崎 まほろ, 森田 萌紅, 土屋 孝弘, 宮本 勝城, 駒野 淳.: *Vibrio vulnificus* の病原性発現メカニズムの解析. 第 93 回日本細菌学会, 2 月 (名古屋)

生体機能解析学研究室

学会発表等

- 1) 関戸 麻美, 山口 美咲, 遠藤 麻由香, 阪出 晴香, 田中 智, 坂口 実.: ヒト骨髄性白血病細胞 HL-60 に対するプロリルオリゴペプチダーゼ阻害薬 (SUAM-14746) の細胞死誘導機構の解析. 日本薬学会 第 140 年会, 3 月 (京都 Web 公開)
- 2) 山口 雄矢, 今 海斗, 澤田 茜, 天野 祐美, 田中 智, 坂口 実.: 神経芽腫細胞の S 期のヒストン H2B 発現におけるプロリルオリゴペプチダーゼと GAPDH との相互作用の役割. 日本薬学会 第 140 年会, 3 月 (京都 Web 公開)
- 3) 西内 良太, 坂東 実佳, 井阪 千晟, 古田 裕貴, 山田 唯, 田中 智, 坂口 実.: プロリルオリゴペプチダーゼノックアウト細胞に対するシタラビンの細胞毒性作用. 日本薬学会 第 140 年会, 3 月 (京都 Web 公開)
- 4) 村田 奈津子, 倉敷 侑季, 橋田 晴菜, 北口 大毅, 田中 智, 坂口 実.: 非腫瘍性ヒト乳腺上皮細胞におけるベルベリンの濃度に依存した増殖阻害作用の解析. 日本薬学会 第 140 年会, 3 月 (京都 Web 公開)
- 5) 田中 智, 西堂 美砂, 日野 公美子, 生熊 あかね, 月岡 千嘉子, 上田 一輝, 岡 直輝, 吉井 萌, 森田 蒼, 北川 みどり, 米山 弘樹, 坂口 実, 春沢 信哉, 宇佐美 吉英. トリプルネガティブ乳がん細胞株 MDA-MB-231 に対するヒスタミン H3 受容体拮抗薬の細胞死誘導作用. 日本薬学会 第 140 年会, 3 月 (京都 Web 公開)

生化学研究室

学術論文

- 1) Yuta Ryoden, Toshihiro Fujii, Katsumori Segawa, Shigekazu Nagata. 2020. Functional Expression of the P2X7 ATP Receptor Requires Eros. *J Immunol.* **204**:559-568.

学会発表等

- 1) 塩見 実咲, 藤井 忍, 藤井 俊裕, 福永 理己郎.: Mnk1 および p38MAPKa/b/g 遺伝子の多重欠損 HeLa 細胞の作製と、これを用いた Mnk2 の活性化機構の解析. 第 70 回 日本薬学会関西支部総会・大会, 10 月 (オンライン@立命館大学)

薬品物理化学研究室

学術論文

- 1) T. Tsuchida, K. Susa, T. Kibiki, T. Tsuchiya, K. Miyamoto, Y. In, K. Minoura, T. Taniguchi, T. Ishida, K. Tomoo*. 2020. Crystal structure of the human tau PHF core domain VQIINK complexed with the Fab domain of monoclonal antibody Tau2r3. *FEBS Letters* **594(13)**: 2140-2149.
- 2) N. Okai, K. Miyamoto*, K. Tomoo, T. Tsuchiya, J. Komano, T. Tanabe, T. Funahashi, H. Tsujibo. 2020. VuuB and IutB reduce ferric-vulnibactin in *Vibrio vulnificus* M2799. *BioMetals* **33(4-5)**: 187-200.
- 3) T. Kikuchi*, K. Akita, H. Koike, Y. In, T. Yamada, R. Tanaka. 2020. Carapanins A-C: new limonoids from andiroba (*Carapa guianensis*) fruit oil. *Organic & Biomolecular Chemistry* **18(45)**: 9268-9274.
- 4) T. Kikuchi*, M. Mori, Y. In, J. Zhang, T. Yamada, T. Hirano. 2020. Pleurocorols A and B: rearranged steroids from the fruiting bodies of *Pleurotus cornucopiae*. *Organic Chemistry Frontiers* **7(15)**: 2022-2028.

学会発表等

- 1) 槌田 智裕, 土屋 孝弘, 尹 康子, 箕浦 克彦, 谷口 泰造, 友尾 幸司.: アルツハイマー型認知症関連タンパク質 Tau 特異的認識抗体による、Tau 自己重合阻害機構の解明. 日本薬学会 第 140 年会, 3 月 (京都 Web 公開)
- 2) 槌田 智裕, 土屋 孝弘, 宮本 勝城, 箕浦 克彦, 尹 康子, 高井 真司, 上野 照生, 藤岡 良彦, 谷口 泰造, 友尾 幸司.: アルツハイマー病関連タンパク質 Tau 認識抗体による Tau 自己重合阻害機構の解明. 第 70 回 日本薬学会関西支部総会・大会, 10 月 (オンライン@立命館大学)

機能分子創製化学研究室

学術論文

- 1) T. Funai, C. Tagawa, O. Nakagawa, S. Wada, A. Ono, H. Urata*. 2020. Enzymatic formation of consecutive thymine–HgII–thymine base pairs by DNA polymerases. *Chemical Communications* **56**:12025-12028.
- 2) T. Funai, M. Aotani, R. Kiri, J. Nakamura, Y. Miyazaki, O. Nakagawa, S. Wada, H. Torigoe, A. Ono, H. Urata*. 2020. Silver(I)-Ion-Mediated Cytosine-Containing Base Pairs: Metal Ion Specificity for Duplex Stabilization and Susceptibility toward DNA Polymerases. *ChemBioChem* **21**:517-522.
- 3) T. Funai, N. Adachi, M. Aotani, S. Wada, H. Urata*. 2020. Effects of metal ions on thermal stabilities of DNA duplexes containing homo- and heterochiral mismatched base pairs: comparison of internal and terminal substitutions. *Nucleosides, Nucleotides and Nucleic Acids* **39**:310-321.

解説・プロシーディング・紀要・その他

- 1) 林 淳祐, 和田 俊一, 浦田 秀仁*. 2020. REDUCT-siRNA : 細胞内還元環境に応答して活性化するプロドラッグ型 RNA 創薬. *Medical Science Digest* **46**:582-585.

学会発表等

- 1) 白馬 瑞希, 中田 賢, 林 淳祐, 和田 俊一, 浦田 秀仁.: DNA ポリメラーゼによる CuI 錯体型塩基対の形成を介したプライマー伸長反応. 日本薬学会 第 140 年会, 3 月 (京都 Web 公開)
- 2) 吉本 光喜, 高田 晃司, 和田 俊一, 大貫 和信, 藤井 博史.: 膜透過性ペプチド MAP(Aib)が ^{111}In -DOTA-c(RGDfK)の動態に及ぼす影響. 日本薬学会 第 140 年会, 3 月 (京都 Web 公開)
- 3) 荒川 章裕, 木田 隼英, 安達 咲希, 小野 晶, 浦田 秀仁, 平林 佳, 鳥越 秀峰.: 2 本鎖 DNA の融解温度の上昇が金属イオンとミスマッチ塩基対の特異的結合を必ずしも示すわけではない. 日本化学会第 100 春期年会, 3 月 (千葉)

- 4) 浦田 秀仁.: 細胞内を模倣した還元的環境で活性化するプロドラッグ型核酸創薬. 医工薬連環科学教育研究機構研究発表会 (関西大学)

有機薬化学研究室

学術論文

- 1) Usami Y.*, Tatsui Y., Yoneyama H., Harusawa S. 2020. C4-Alkylamination of C4-Halo-1H-1-tritylpyrazoles Using Pd(dba)₂ or CuI *Molecules* **25**: 4634.
- 2) Yoneyama H., Oka N., Usami Y., Harusawa S.* 2020. A novel synthetic method of 2,4-disubstituted oxazoles using carboxylic acid-derived Bu₂Sn[OC(O)R]₂. *Tetrahedron Letters* **61**: 151983.
- 3) Usami Y.*, Higuchi M., Mizuki K., Yamamoto M., Kanki M., Nakasone C., Sugimoto Y. 2020. Syntheses and glycosidase inhibitory activities, and in silico docking studies of pericosine e analogs methoxy-substituted at C6. *Marine Drugs* **18**:221.
- 4) Yoneyama H., Oka, N. Usam, Y., Harusawa S.* 2020. TMSN₃-Bu₂Sn(OAc)₂: A modified and mild reagent system for Wittenberger tetrazole-synthesis. *Tetrahedron Letters* **61**:151517.
- 5) Usami Y.*, Tsujiuchi Y., Machiya Y., Chiba A., Ikawa T., Yoneyama H., Harusawa S. 2020. Synthetic challenges in the construction of 8- To 10-membered pyrazole-fused rings via ring-closing metathesis. *Heterocycles* **101**:496-511.

学会発表等

- 1) 米山 弘樹, 高辻 来未, 田嶋 紗希, 春沢 信哉, 宇佐 美吉英.: テトラゾール-フラグメンテーションによる中性条件下での 3-置換シクロペンテノン合成. 日本薬学会 第 140 年会, 3 月 (京都 Web 公開)
- 2) 岡 直輝, 吉井 萌, 森田 蒼, 北川 みどり, 上田 一輝, 西堂 美砂, 日野 公美子, 生熊 あかね, 月岡 知嘉子, 米山 弘樹, 田中 智, 坂口 実, 春沢 信哉, 宇佐美 吉英.: アルキンから 2,4-二置換オキサゾールへの変換反応を用いた乳がん細胞増殖抑制物質への応用. 日本薬学会 第 140 年会, 3 月 (京都 Web 公開)
- 3) 植村 雅子, 平本 恵一, 米山 弘樹, 宇佐美 吉英, 春沢 信哉, 米田 誠治.: 含フッ素白金(II)二核錯体のマウス大腸がんにおける細胞内蓄積量と in vitro および in vivo 活性評価. 日本薬学会 第 140 年会, 3 月 (京都 Web 公開)

- 4) 田中 智, 西堂 美砂, 日野 公美子, 生熊 あかね, 月岡 知嘉子, 上田 一輝, 岡 直輝, 吉井萌, 森田 蒼, 北川 みどり, 米山 弘樹, 坂口 実, 春沢 信哉, 宇佐美 吉英.: トリプルネガティブ乳がん細胞株 MDA-MB-231 に対するヒスタミン H3 受容体拮抗薬の細胞死誘導作用. 日本薬学会 第 140 年会, 3 月 (京都 Web 公開)
- 5) 谷川 卓伸, 若森 見路, 葉山 登, 米山 弘樹, 春沢 信哉, 宇佐美 吉英.: 非天然型(-)-lincitol A 及び B の合成研究. 第 70 回 日本薬学会関西支部総会・大会, 10 月 (オンライン@立命館大学)
- 6) 神吉 真緒, 樋口 萌, 永井 純子, 植沢 芳広, 米山 弘樹, 春沢 信哉, 宇佐美 吉英.: 6 位にメトキシ基を持つ pericosine E 誘導体の合成研究 — α -グリコシダーゼ阻害剤の創製. 第 70 回 日本薬学会関西支部総会・大会, 10 月 (オンライン@立命館大学)
- 7) 森田 蒼, 吉井 萌, 岡 直輝, 西堂 美砂, 日野 久美子, 米山 弘樹, 田中 智, 坂口 実, 春沢信哉, 宇佐美 吉英.: 2,4-二置換オキサゾールを中間鎖とする乳癌細胞増殖抑制物質の合成. 第 70 回 日本薬学会関西支部総会・大会, 10 月 (オンライン@立命館大学)
- 8) 西川 紘平, 葉山 登, 米山 弘樹, 宇佐美 吉英.: 何故、フェノール類は 4-ハロピラゾールとカップリングしないのか? —CuI が触媒するフェノール類のホモカップリング. 第 70 回 日本薬学会関西支部総会・大会, 10 月 (オンライン@立命館大学)
- 9) 葉山 登.: α,β -不飽和カルボン酸への直截的不斉チアマイケル反応の開発. 第 70 回 日本薬学会関西支部総会・大会, 10 月 (オンライン@立命館大学)
- 10) 神路 浩美, 葉山 登, 堀山 志朱代, 萩中 淳.: アビラテロンおよびその置換体に対する分子インプリントポリマーの調製と応用. 第 31 回クロマトグラフィー科学会議, 11 月 (静岡)

医薬分子化学研究室

学術論文

- 1) T. Yamada*, H. Kogure, M. Kataoka, T. Kikuchi, T. Hirano. 2020. Halosmysin A, a Novel 14-Membered Macrolide Isolated from the Marine-Algae-Derived Fungus Halosphaeriaceae sp. *Mar Drugs* **18**: 320/1–9.
- 2) T. Kikuchi*, K. Akiyama, H. Koike, Y. In, T. Yamada, R. Tanaka. 2020. Carapanins A-C: new limonoids from andiroba (*Carapa guianensis*) fruit oil. *Org Biomol Chem* **18**: 9268-9274
- 3) A. Asano*, K. Minoura, Y. Kojima, T. Yoshii, R. Ito, T. Yamada, M. Doi. 2020. NMR-based quantitative studies of the conformational equilibrium between their square and folded forms of ascidiacyclamide and its analogues. *RSC Adv.***10**: 33317-33326.
- 4) T. Kikuchi*, M. Mori, Y. In, J. Zhang, T. Yamada, T. Hirano. 2020. Pleurocorols A and B: rearranged steroids from the fruiting bodies of *Pleurotus cornucopiae*. *Org Chem Front* **7**: 2022-2028.
- 5) Asano*, T. Yamada, M. Doi. 2020. Incorporation of β -amino acids into ascidiacyclamides: Effects on conformation, cytotoxicity and interaction with copper (II) ion. *J pep Sci* **26**: e3225/1-10.
- 6) S.-Z. Su, J.-X. Cheng, C.-F. Zhang, T. Akihisa, J. Xu, W.-F. Zhu, W.-Y. Liu, T. Kikuchi, F. Feng, J. Zhang*.2020. Melanogenesis-inhibitory activities of limonoids and tricyclic diterpenoids from *Azadirachta indica*. *Bioorg Chem* **100**: 103941.

総説

- 1) 平野 智也*. 2020. 新たな構造・機能を持った光機能分子の開発. *ファルマシア*, **56**:1112-1116.

著書

- 1) 平野 智也. 2020. 3 章実例、7 章 3 節～5 節、11 章 "ダンラップ・ヒューリン創薬化学" Dunlap, N. K. and Huryn, D. M. 著、長野哲雄監訳、東京化学同人（東京）. pp.56-59, 159-169, 249-279.

学会発表等

- 1) 加藤 大輝, 山崎 えりか, 平野 智也, 影近 弘之.: 生体内での環境変化に応答する光分解性保護基の開発. 日本薬学会 第 140 年会, 3 月 (京都 Web 公開)
- 2) 上川 拓也, 平野 智也, 影近 弘之.: N1-メチルアデノシンを検出する有機化学反応の開発. 日本薬学会 第 140 年会, 3 月 (京都 Web 公開)
- 3) 加藤 大輝, 平野 智也, 影近 弘之.: 特定の pH 領域選択的に機能する光分解性保護基の開発. 第 64 回日本薬学会関東支部大会, 9 月 (オンライン)
- 4) 上川 拓也, 平野 智也, 影近 弘之.: N1-メチルアデノシンを検出する有機化学反応の開発. 第 64 回日本薬学会関東支部大会, 9 月 (オンライン)
- 5) 平野 智也, 加藤 大輝, 影近 弘之.: OFF-ON-OFF 型制御により特定の pH 領域で機能する Caged 化合物の開発. 第 70 回 日本薬学会関西支部総会・大会, 10 月 (オンライン@立命館大学)
- 6) 長友 暁史, 二宮 清文, 丸本 真輔, 酒井 千恵, 村岡 修, 菊池 崇, 山田 剛司, 田中 麗子, 森川 敏生.: ブラジル生薬アンディローバ (*Carapa guianensis*) 由来 limonoid の HepG2 細胞における脂質代謝促進活性およびその作用機序. 日本薬学会 第 140 年会, 3 月 (京都 Web 公開)

生薬科学研究室

学術論文

- 1) T. S. Ying, K. L. See, Y. Hirata, L. K. Chan*, Y. Nagaoka, S. Uesato. 2020. Cytotoxic Activity of Cell Suspension Cultured and Plant Derived Crude Extracts of Tongkat Ali (*Eurycoma longifolia* Jack) against Human Cancer Cell Lines. *Int J Sci Res in Biological Sciences* **7(3)**: 1.
- 2) 尾崎 和男, 古平 栄一, 芝野 真喜雄*. 2020. ジャノヒゲの栽培研究 (その1) 栽培種の選定と膨大部の形成に及ぼす環境要因について. *薬用植物研究* **42(2)**: 10-21.

著書

- 1) Yumi Kitahiro, Makio Shibano*. 2020. Antioxidant properties and applications of *Ophiopogon japonicus* root for age-related disease Aging: Oxidative Stress and Dietary Antioxidants 2nd. Edition edited by Victor R. Preedy and Vinood B. Patel, King's College London, Academic Press, Elsevier (London) pp275-282.

特許

- 1) 谷口 雅彦, 村上 能庸, 馬場 きみ江, 吾妻 正章.: アセチルコリンエステラーゼ. 特開 2020-26400, WO2020/032154 A1. 株式会社東洋マテリアル
- 2) 村上 能庸, 吾妻 正章, 谷口 雅彦, 馬場 きみ江.: 浮遊粒子状物質誘発性炎症抑制剤及び浮遊粒子状物質誘発性炎症抑制用食品. WO2020/158800 A1. 株式会社ジャバララボラトリー
- 3) 谷口 雅彦, 村上 能庸, 馬場 きみ江, 藤田 義昌, 大岡 真弓.: 皮膚老化防止剤及びエラスターゼ阻害活性剤. 特開 2020-26408. 株式会社健康素材研究所

学会発表等

- 1) 柏木 翔和, 村上 能庸, 平田 佳之, 芝野 真喜雄, 谷口 雅彦.: サンズコンの成分研究 (3). 日本薬学会 第 140 年会, 3 月 (京都 Web 公開)

- 2) 平田 佳之, 佐々木 勉, 上里 新一, 長岡 康夫, 芝野 真喜雄, 谷口 雅彦.: ケミカルブルダウン法によるビンロウジアルカロイド *arecaidine* の神経成長因子の探索. 日本薬学会 第 140 年会, 3 月 (京都 Web 公開)
- 3) 村上 能庸, 吾妻 正章, 吾妻 英子, 馬場 きみ江, 谷口 雅彦.: 種々の浮遊粒子状物質による上皮細胞への炎症誘導と柑橘ジャバラ果皮成分による抑制. 日本薬学会 第 140 年会, 3 月 (京都 Web 公開)
- 4) 芝野 真喜雄, 田中 優花, 尾崎 和男.: キキョウ *Platycodon grandiflorus* の収穫時期とサポニン含量について. 日本薬学会, 第 140 年会 3 月 (京都 Web 公開)
- 5) 北廣 優実, 山本 和宏, 大本 暢子, 久米 学, 芝野 真喜雄, 大村 友博, 矢野 育子.: がん悪液質に対する補中益気湯による改善効果に関する調査. 日本薬学会 第 140 年会, 3 月 (京都 Web 公開)

分子構造化学研究室

学術論文

- 1) Asano A*, Minoura K, Kojima Y, Yoshii T, Ito R, Yamada T, Kato T, Doi M. 2020. NMR-based quantitative studies of the conformational equilibrium between their square and folded forms of ascidiacyclamide and its analogues. *RSC Adv* **10**: 33317-33326.
- 2) Ueda A, Ikeda M, Kasae T, Doi M, Demizu Y, Oba M, Tanaka M*. 2020. Synthesis of Chiral α - Trifluoromethyl α, α - Disubstituted α - Amino Acids and Conformational Analysis of L - Leu - Based Peptides with (R) - or (S) - α - Trifluoromethylalanine. *Chemistry Selec* **5**:10882-10886.

学会発表等

- 1) 浅野 晶子, 箕浦 克彦, 山田 剛司, 土井 光暢.: NMR 分光法を用いたアシジアサイクラマイドのコンフォメーション平衡の評価. 日本薬学会 第 140 年会, 3 月 (京都 Web 公開)
- 2) 土井 光暢, 松岡 栞, 南 知里, 加藤 巧馬, 浅野 晶子.: Orn 置換型グラミシジン S 誘導体の結晶構造について. 日本薬学会 第 140 年会, 3 月 (京都 Web 公開)
- 3) 加藤 巧馬, 中町 瑞穂子, 浅野 晶子, 土井 光暢.: Pep-1 ペプチド配列をモデルとしたジ置換アミノ酸含有膜透過性ペプチドの開発. 日本薬学会 第 140 年会 3 月, (京都 Web 公開)
- 4) 梅野 智大, 上田 篤志, 加藤 巧馬, 土井 光暢, 田中 正一.: 立体選択的 1,3-双極子付加環化反応のためのヘリカルペプチド型ホスフィン配位子の開発. 日本薬学会 第 140 年会 3 月, (京都 Web 公開)
- 5) 真倉 唯, 上田 篤志, 梅野 智大, 加藤 巧馬, 平山 和浩, 土井 光暢, 大庭 誠, 田中 正一.: 五員環状ジ置換アミノ酸を利用した E 選択的なペプチド側鎖架橋形成法の開発. 日本薬学会 第 140 年会, 3 月 (京都 Web 公開)
- 6) 加藤 巧馬, 中町 瑞穂子, 浅野 晶子, 土井 光暢.: Development of amphipathic cell penetrating peptide based on Pep-1 sequence. 第 57 回ペプチド討論, 11 月 (オンライン)

- 7) 中町 瑞穂子, 加藤 巧馬, 浅野 晶子, 土井 光暢.: pep-1 ペプチドをモデル配列としたジ置換アミノ酸導入膜透過性ペプチドの創製と評価. 第 70 回 日本薬学会関西支部総会・大会, 10 月 (オンライン@立命館大学)

薬学教育研究センター

学術論文

- 1) M. Miyazaki*, M. Hayata, N. Samukawa, K. Iwanaga, J. Nagai. 2020. Pharmacokinetic–pharmacodynamic modelling of the hypoglycaemic effect of pulsatile administration of human insulin in rats. *Sci Rep* **10(1)**:18876.
- 2) Masamitsu Harada, Jun Nagai, Riho Kurata, Kenji Shimizu, Xiaofeng Cui, Takayuki Isagawa, Hiroaki Semba, Jun Ishihara, Yasuhiro Yoshida, Norihiko Takeda, Koji Maemura, Tomo Yonezawa*. 2020. Establishment of Novel High-Standard Chemiluminescent Assay for NTPase in Two Protozoans and Its High-Throughput Screening. *Mar Drugs* **18(3)**:161.
- 3) Kurata R, Shimizu K, Cui X, Harada M, Isagawa T, Semba H, Ishihara J, Yamada K, Nagai J, Yoshida Y, Takeda N, Maemura K, Yonezawa T*. 2020. Novel Reporter System Monitoring IL-18 Specific Signaling Can Be Applied to High-Throughput Screening. *Mar Drugs* **18(1)**: 60.
- 4) 倉田 里穂*, 米澤 朋, 猪子 英俊. 2020. 日本人ベーチェット病における遺伝子関連解析から診断応用へ. *Precision Medicine* **3(12)**: 86-91.
- 5) 倉田 里穂*, 米澤 朋, 猪子 英俊. 2020. ベーチェット病感受性遺伝子 TRIM39R における I 型 IFN 産生機構の解析. *Medical Science Digest* **46(10)**:54-57.
- 6) 倉田 里穂, 原田 将光, 米澤 朋*. 2020. 自己免疫疾患への治療薬作出のための新規リポーター細胞の樹立：独自ライブラリーを用いた創薬への取り組み. *Medical Science Digest* **46(10)**:42-46.
- 7) 倉田 里穂, 砂河 孝行, 仙波 宏章, 武田 憲彦, 前村 浩二, 米澤 朋*. 2020. ヒト IL-18 特異的シグナルを検出する新規リポーター細胞の樹立および独自ライブラリーを用いた創薬への取り組み. *BIO Clinica* **9(1)**:96-101.

学会発表等

- 1) 宮崎 誠, 前野 真徳, 手島 尚.: 学修指導改善を目指したリーディングスキルテストの導入 (2) 一読解力と薬剤師国家試験 成績 との関係に関する検討ー. 第 5 回日本薬学教育学会大会, 9 月 (Web 開催)

- 2) 加川 信也, 平田 雅彦, 大桃 善朗, 西井 龍一, 東 達也, 奥山 智緒, 山内 浩.: アミノ酸輸送システム A に着目した F-18 標識薬剤の合成基礎検討. 第 60 回日本核医学会学術総会, 11 月 (神戸)
- 3) 米澤 朋, 倉田 里穂, Cui Xiaofeng, 原田 将光.: 原虫感染症における生体内を検出するアッセイ系の樹立. 第 43 回日本分子生物学会, 12 月 (Web 開催)
- 4) 佐藤 卓史, 角山 香織, 倉田 里穂, 庄司 雅紀.: 質的分析入門 ~コーディングとその後の解析に少し触れてみよう~. 第 5 回日本薬学教育学会大会, 9 月 (Web 開催)
- 2) 米澤 朋, 倉田 里穂, Cui Xiaofeng, 原田 将光, 永井 潤, 吉田 安宏.: ハイスループットスクリーニングに応用可能な IL-18 シグナル特異的レポーター細胞の樹立. 第 93 回日本薬理学会年会, 3 月 (横浜, 紙上開催)

中央機器研究施設

学術論文

- 1) H. China*, H. Yatabe, N. Kageyama, M. Fujitake, K. Kikushima, and T. Dohi. 2020. New syntheses of haloketo acid methyl esters and their transformation to halolactones by reductive cyclization. *Russian Chemical Bulletin* **69(9)**:1804-1810.
- 2) Masa-aki MUROYA *, Mihoyo FUJITAKE, Kazuhiko YAGUCHI, Hiroshi YAMADA and Hitoshi KOSHIMIZU. 2020. The Use of FAB-MS to Study Characters of Silicic Acids and Silicates in Sodium Silicate Solution. 大阪電気通信大学 研究論集 (自然科学編) **55**:51-88

学会発表等

- 1) 藤嶽 美穂代. : FAB・EI で生成するイオン種とそこからわかること. 第19回質量分析技術者研究会, 12月 (webex)

自然科学グループ

解説・プロシーディング・紀要・その他

- 1) 永田 誠*, 武井 由智. 2020. ヒトが生成する置換の統計的性質 II. 大阪薬科大学紀要 14:19-48.

言語文化学グループ

解説・プロシーディング・紀要・その他

- 2) 楠瀬 健昭*. 2020. 「地球を包む緑のマントル」など. *大阪薬科大学紀要* **14**:87
- 3) 吉田 舞衣*, スミス 山下 朋子, 楠瀬 健昭. 2020. 訪日外国人の日本における薬局利用状況と傷病時の対処行動に関する調査. *大阪薬科大学紀要* **14**: 49-75.
- 4) スミス 山下 朋子*, 天ヶ瀬 葉子, 山下 直子, 野口 ジュディー. 2020, 意味と発音に焦点を当てた薬学生の専門用語の語彙習得について. *大阪薬科大学紀要* **14**: 77-86.
- 5) 吉田 舞衣*, スミス 山下 朋子, 楠瀬 健昭. 2020. 訪日外国人の日本における薬局利用状況と傷病時の対処行動に関する調査. *大阪薬科大学紀要* **14**: 49-75.
- 6) 田邊 久美子*. 2020. 『イングランドの四季の詩』より「春」の部. *文学と評論* **第3集 14号**: 151-162, 200.
- 7) 加藤 裕司, 田中 早織, 加藤 沙苗, 田口 真希, 水谷 沙帆, 山口 敬子, 松村 人志, スミス山下 朋子, 藤原 祥子, 後山 尚久, 島本 史夫*. 2020. 胃底腺ポリープおよび胃過形成性ポリープ発症に関与する諸因子の検討. *大阪薬科大学紀要* **14**:141-148.
- 8) 野口 ジュディー, 天ヶ瀬 葉子, スミス 山下 朋子*, : Medical Terminology: Affixes (Med-Affix). 丸善雄松堂・デンショク, 2020 年 5 月
- 9) 天ヶ瀬 葉子, スミス 山下 朋子*, 野口 ジュディー. : Medical Terminology: Basic Terms (Med-Basic). 丸善雄松堂・デンショク, 2020 年 9 月

人間文化学グループ

総説

- 1) 城下 賢一*. 2020. 小沢一郎論. 季論 21

著書

- 1) 筒井 清忠, 牧野 邦昭, 五百旗頭 薫, 駄場 裕司, 城下 賢一*, 宮城 大蔵, 井信 幸, 牧原出, 井上 正也, 浜田 幸絵, 佐藤 晋, 木村 幹, 西山 伸, 平良 好利, 小堀 聡, 秋山 信将, 平野 創, 若月 秀和, 山口 航, 奈良岡 聰智, 飯尾 潤, 村田 晃嗣. 2020. 「岸内閣の内政と外交」『昭和史講義【戦後篇】』下巻、筒井清忠編、筑摩書房（東京）pp. 67-83.

解説・プロシーディング・紀要・その他

- 1) 城下 賢一*, 木多 悠介, 海野 大地, 田中 将太, 落合 優翼, 中村 凌太郎, 鹿島 晶子. 2020. 解題・本文「厚生省薬務局長日記 「高田浩運日記」 1960 年 7 月～1960 年 12 月」. 大阪薬科大学紀要 14:173-210.
- 2) 海野 大地*, 城下 賢一, 田中 将太, 木多 悠介, 落合 優翼, 中村 凌太郎. 2020. 解題と翻刻 「西潟為蔵日記」大正 2 年 1 月～6 月. 立命館大学人文科学研究所紀要 124:205-265
- 3) 城下 賢一*. 2020. 薬事法改正と行政・団体関係 1956-1960 自民党政権初期の政策決定過程の事例分析. 立命館大学人文科学研究所紀要 124:169-203

学会発表等

- 1) 城下 賢一.: 公明党に関する最近の主要な研究. 科研「中道左派政党の国際比較」研究会

環境医療学グループ

著書

- 1) 当麻 成人*. : 健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法. 第 14 章 3.静的柔軟能力と動的柔軟能力 出村慎一 監修,杏林書院（東京） pp.214-220, 2019

解説・プロシーディング・紀要・その他

- 1) 阪本 恭子, トビアス・バウアー. 2020. 「AID（非配偶者間人工授精）で生まれた人を対象としたアンケート調査」.
https://www.soscisurvey.de/di_offspring/?act=IXrEyRvHa0jgEi9OXpDTWe7F
- 2) 当麻 成人*, 出村 慎一, 青木 宏樹, 長澤 吉則, 松浦 義政, 上田 修裕, 藤松 典子.
2020. 連続選択タッチ反応テストの利き手と非利き手間差及びタッチ位置間差の検討.
大阪薬科大学紀要 14:5-9
- 3) 当麻 成人.: 大阪代表国体監督（水球）. 近畿大会, 京都, コロナ禍により中止
- 4) 当麻 成人.: 大阪代表 U17 監督（水球）. U17 全国大会, 新潟県柏崎市, コロナ禍により中止